

様式 6 - 3

平成 22 年度 交付金プロジェクト研究課題 終了評価結果

課題名：中国における木材貿易の拡大が我が国の林業・木材産業に及ぼす影響の解明

主査氏名（所属）：堀靖人（林業経営・政策研究領域）

担当部署：林業経営・政策研究領域、北海道支所・東北支所・関西支所・九州支所

参画機関：神奈川県自然環境保全センター、日本貿易振興機構アジア経済研究所、北京林業大学、中国林業科学研究院

研究期間：平成 20 ～ 22 年度

1. 目的

急激な経済成長にともない中国は世界の木材貿易においてもその位置づけを高めている。同時に中国は世界の工場から世界の市場へと移行しつつある。こうした中国の動向は日本に大きな影響を及ぼす。しかし、中国の森林、林業、木材産業に関する総括的な研究はない。本研究では、第一に中国の森林、林業、木材産業に関わる政策を分析することによって、制度的な側面から中国の木材貿易と木材産業の動向を分析すること、第二に木材貿易と木材産業の実態調査にもとづきその変容について実証的に位置づけること、第三にこれらの調査研究の成果をもとに、計量経済モデルを作成し、今後の動向に関していくつかのシナリオを作成する。以上を通じて、今後の我が国の木材貿易と林業、木材産業に関わる政策立案に貢献しうる情報提供を行うことが最終的な目的である。

2. 全期間における研究成果の概要

ここ 10 数年間の急激な経済発展により、世界の木材貿易の重要なアクターとなった中国の林業、木材産業の実態とそれらに関する政策の動向から、日本の林業、木材産業への影響を分析した。中国の森林、林業政策は 2000 年前後に大きく変わり、国内森林資源保護のため伐採抑制的な政策がとられ、旺盛な国内消費をまかなうために木材輸入を拡大させてきた。また各種規制緩和により、木材産業が急速に発展し、その生産も急激に拡大してきた。中国の世界平均よりも相対的に高い経済成長がこれまでどおり続けば中国の木材輸入は増す。逆に日本は木材輸入量の減少を余儀なくされ、国産材需要が増すと今回作成した計量経済モデルによって推測された。今後、中国は、賃金の上昇、人民元切り上げが予測され、世界の工場から世界の市場へと変わる転換点にあると見られる。日本の木材需要拡大、林業、木材産業振興を考える上でも、中国の木材産業と貿易の動向は重要であり、これからの中国の動きを継続して観察する必要がある。

3. 全年度の発表業績

- 1) 平野悠一郎、現代中国における指導者層の森林認識、アジア研究、54(3)、71-87、2008.7
- 2) 平野悠一郎、森が資源となる幾つかのみち—中国の歴史という事例から—、佐藤仁編著、人々の資源論、明石書店、39-64、2008.9
- 3) 平野悠一郎、中国における森林関連の公式統計の特徴と問題点—その集計基準・方法からの考察—、林業経済、61(11)、16-31、2009.2
- 4) 立花敏、中国と韓国における森林資源の転換と木材産業との関係、林業経済研究、55(1)、3-13、2009.3
- 5) 立花敏、中国における丸太と製材品の輸入動向、山林、1499、54-55、2009.4
- 6) 平野悠一郎、最近の中国における森林環境問題—域外をも巻き込む複合的な構造へ—、中国環境問題研究会編、中国環境ハンドブック 2009-2010 年版、蒼蒼社、45-64、2009.5
- 7) 平野悠一郎、森林環境方面の法令について、中国環境問題研究会編、中国環境ハンドブック 2009-2010 年版、蒼蒼社、297-306、2009.5
- 8) 平野悠一郎、統計：森林関連、中国環境問題研究会編、中国環境ハンドブック 2009-2010 年版、蒼蒼社、366-375、2009.5

- 9)張玉福・平野悠一郎・山本伸幸、中国森林関連統計の制度的実態と評価、林業経済、62(7)、14-29、2009.10
- 10)山根正伸、木材―アムールトラの棲む森はいま、窪田順平編著、モノの越境と地球環境問題―グローバル化時代の〈知産知消〉、昭和堂、37-36
- 11)山根正伸・堀靖人・平野悠一郎、中国大連市の木材加工業から見た北東アジアの森林資源利用の趨勢、林業経済(中国)、91-92、2009.11(中国語)
- 12)立花敏、中国江西省における人工林造成の展開―コウヨウザンとスラッシュマツを中心に―、木材情報、222、10-13、2009.11
- 13)立花敏、カナダにおける製材品の生産と輸出の動向、山林、1506、48-49、2009.11
- 14)柿澤宏昭・山根正伸・朴紅、アムール川流域の森林利用と農業開発、地理、54(12)、47-51、2009.12
- 15)堀靖人・平野悠一郎・立花敏、中国の木材貿易の拡大、海外の森林と林業、79、36-40、2010.9
- 16)堀靖人・平野悠一郎・立花敏他、中国の木材貿易拡大と木材産業の動向、木材保存、36(5)、192-199、2010.9
- 17)森林総合研究所編、中国の森林・林業・木材産業、日本林業調査会、479、2010.12
- 18)Michinaka, T., Tachibana, S., Turner, J. A., Hori, Y., Hirano, Y., Impact of Changes in China's Forest Sector on Japan and Other Major Countries, FORMATH、10、2011.3

4. 評価委員氏名(所属)

石井 寛(北海道大学名誉教授)

5. 評価結果の概要

これまでの中国研究は主として中国留学生による研究であり、またテーマも個別的であり、総体的に政策動向も含めて研究されることはなかった。今回の研究プロジェクトは、中国の森林・林業・木材産業総体の把握を課題とした。研究課題の実行とその成否を左右する中国側カウンターパートの選定に当たって、これまでの研究蓄積、国内外の研究機関との共同研究の経験など森林総合研究所の持てる力が十分に発揮された研究プロジェクトであった。最終年度の半ばに、研究成果を公刊図書と国際シンポジウム開催によって広く一般に公表することができたことは高く評価できる。今回の成果を踏まえて、外部資金を獲得して、新たな研究プロジェクトを早急に立ち上げることを期待したい。

6. 評価において指摘された事項への対応

今回得られた成果をさらに掘り下げてゆくために研究の継続が必要であるとの指摘がなされた。中国の森林、林業、木材産業の研究を継続するために必要な研究費を得るために外部の競争的資金の獲得に努力したい。